

掲載日：2011年11月18日

丹沢ボラネット瓦版 2011年3月号 No.78

みろく山の会 第29回清掃・登山道整備活動報告

この一週間、丹沢では雪の降る日が多く凍結などで通行が心配されたコースもありましたが、当日は晴れ上がった青空に表尾根の白いスカイラインが浮かび上がる絶好の日和に恵まれたなか2011年3月5日（土曜日）第29回清掃・登山道整備活動が227名（内非会員1人）の参加者と関係者の方々のご協力とご支援により盛大に実施されました。

二年続けての雨中の活動もあり、今回の参加者数が減少する懸念もありましたが一昨年の200名を大きく超え、会員の皆様の熱意と自然保護への関心の高さを改めて知ることが出来ました。

清掃活動は、大倉バス停付近及び大倉尾根は毎月の月例山行で利用している事もあって4コースを設定し、ヤビツ峠付近の2コースを加えた6コースでゴミ収集を行い、参加者は171名、収集したゴミはパークセンター裏のバス駐車場で計測した結果304キログラムで、処分を秦野市に依頼しました。

登山道のゴミは登山者のマナー向上もあって大幅に減っています。ただし、旧小屋跡と見られる付近で、埋められた不燃ゴミが表土の流失により露出してきており、ヤビツ峠・ニノ塔など改めて調査して撤去など関係団体と協議することにしています。

また林道周辺の傾斜地には、一般の生活ゴミや産業廃棄物の不法投棄が相変わらず目に付きます。毎年同じコースで清掃活動を実施しているにもかかわらず毎年同じ量のゴミを収集しているのが現状です。林道周辺の清掃活動も貴重な水源を守る上で今後も継続していきますが、具体的な不法投棄防止策について秦野市と意見交換を行うことにしています。



戸川公園前に全員集合

清掃活動に登山道整備が加わって6回を数え、水切りは今回の雑草場を加え37箇所になり、ヌカルミ対策はウッドチップから岩礫に替えた新たな方式を今年から始めました。登山道整備は57名が3班に分れ、1班は雑草場で水切りとヌカルミ対策、2班は一本松ベンチで野外卓の設置、3班は駒止めベンチ付近と富士見平手前でそれぞれヌカルミ対策を行いました。

一本松ベンチにある3台の野外卓のうち1台は昨年3月の交換を終え、整備2班が2台設置したあと老朽化した1台の撤去を行いました。

午後3時10分から秦野戸川公園パークセンター前の広場で報告集会が行われ、鎌田理事長の挨拶に続き、県自然環境保全センター萩原自然保護課長から清掃・整備活動に関する謝辞、地元秦野市北村観光課長の挨拶終了後、早咲き桜をバックにして記念写真を撮り閉会しました。

丹沢大山自然再生活動の大きな活動として注目されている県民協働事業に参加して4年が経過しましたが、これからも私たち一人ひとりの小さな力を集めて大切な丹沢の自然を守り再生する活動にご理解とご協力をお願いいたします。

（みろく山の会 鈴木茂）

丹沢大山里山保全活動交流会（ボラネット交流会）が開催されました

丹沢大山地域でボランティアによる里山保全活動を実施している団体間の交流をとおし、相互の連携による活動の多様化を促すとともに、保全活動への県民理解や参加を促すことを目的として、今回は丹沢大山ボラネット団体である「NPO法人四十八瀬川自然村」のフィールド等を会場として交流会が開催されました。

2部形式で行われ、第1部は、参加者が里山における保全活動を実施している「NPO法人四十八瀬川自然村」のフィールドを他の団体のメンバーの視点で3つのグループに分かれて現地調査したり、活動を体験しました。

- 1,道づくり (NPO法人みろく山の会) ()内は中心団体
- 2,ツアーづくり (NPO法人丹沢自然学校)
- 3,自然観察 (グリーンタフ)



里山ツアー実施



保護されたノスリも飛び入り参加

第2部では、まず今回の活動内容について報告したり、あらたな活動への提案をし合いました。1, 道づくりグループは、現地の尾根道で実際に水切り工を施行し、今後、フィールドとしている団体で利用してほしいとの話がありました。2, ツアーづくりグループでは、豊かな自然のフィールドでさまざまな活動を実施していることに感心し、今後団体間の連携を図っていきたいとの声が上がりました。3, 自然観察グループでは、コクランのような貴重な植物を発見することができたり、クヌギ・コナラの萌芽の手入れ方法を現地で学ぶことができたとの報告がありました。

その後、里山保全活動について助言者として出席された中川重年氏（京都学園大都市デザイン科教授）から、里山の歴史、現在関わっている京都における活動の様子が紹介された。その中で「里山の森林について、単純に考えると、300年間で15年ごと、20回の伐採が繰り返された事実があり、ここに来て放置することは、里山保全の流れを断ち切ることになる。」「里山では金に換えるために必要なものを作ってきた。活動が長く継続されるには経済的な裏づけが大切と感じている。里山活動は厳格にする必要はなく「農産物交流会」でもいいのではないかと感じている。」「リーダーが楽しんでみんなを引っ張れることが重要だ。」「里山の再生は、農業や林業がベースにあるべきだ。神奈川県においても酒づくりのように神奈川県気候や風土を活かした新しい切り口を見つけるべきだ。」など多くの示唆に富む話をいただきました。

交流会は今回初めてですが、別の団体の活動をよく理解できるいい機会となりました。来年度も別の分野をテーマに交流が図られればと思います。



山岳スポーツセンターにて

参加団体：四十八瀬川自然村、丹沢自然学校、県勤労者山岳連盟、野生動物救護の会、グリーンタフ、丹沢自然保護協会、北丹沢山岳センター、みろく山の会、自然環境保全センター 計45名

(杉山
勉)

アオサンゴ化石起し隊報告

「台風で埋まったアオサンゴ化石を、再び多くの人が見ることが出来るようにしたい！」

1月4日、正月開けきらぬにもかかわらず、夏休み親子自然探検隊の講師を務めていただいている門田先生の情熱に応え、様々な団体から先行組を含め33名ものメンバーが集まりました。

西丹沢は昨秋、台風の影響で山や川も大きな被害を被りました。探検隊の実施場所である皆瀬川でも、いつも子どもたちが歯ブラシで磨いている大きな化石が流れたり、埋もれたりしました。この化石を人力で復旧しようというのです。県私立小理科部会、a-nst足柄理科研、神奈川地学の会、くずはの家、みろく山の会、神奈川フィールドスタッフ、丹沢自然学校、VC、横浜自然史博・・・まさしく“アオサンゴ起しネットワーク”。参加者は皆、ヘルメットとカッパ、長靴の出で立ちで、たくましい限りです。熱心な作業の末、大きなアオサンゴの化石が顔を出すことができました。

インターネットで“丹沢・伊豆の変動する大地の探求者「門田真人先生の部屋」

<http://www.washiyama.jp/great-teachers/kadota/index.html>“を参照。動画で見れます。

今年も、夏休みに子どもたちの歓声を聞くことができそうです。



黄色いカッパが門田先生



復活した大きなアオサングの化石

(自然保護課 大木)

お知らせ

2011丹沢ゴミ調査

主催：丹沢ゴミ調査会

調査日：5月14日(土曜日)

調査コース：表尾根、大倉尾根、鍋割山稜、(丹沢山)

集合：当日午前8時ごろ秦野駅、渋沢駅

申込・問合せ先：栗林

2011年度第34回丹沢クリーンハイク 主催：神奈川県勤労者山岳連盟

実施日：5月28日(土曜日) - 29日(日曜日)

28日：水質検査、前夜祭

29日：清掃登山、登山道整備

場所：大倉尾根、表尾根、丹沢山、大山

連絡先：県勤労者山岳連盟丹沢クリーンハイク実行委員会

TEL/FAX 045 - 434 - 2726

お問合せ・連絡先(協働編集事務局)

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 大木伸一

〒243-0121 厚木市七沢657

電話：046 - 248-6682 FAX：046-248-0737

丹沢ボラネット瓦版2011年3月号(通巻78号) 3月30日発行 丹沢大山ボランティアネットワーク(世話人代表杉山勉)

神奈川県

このページの所管所属は [自然環境保全センター](#) です。